



東北の未来を、若者に託す SKY BATON (スカイバトン)

JALグループでは、2013年6月から展開するJAL東北応援プロジェクト「行こう! 東北へ」の一環として、新たに次世代育成と被災地支援の両面に取り組む企画、『SKY BATON』を立ち上げました。

社会人が、この先の東北/日本を築いていく若者を資金面でサポートし(=バトンを託し)、現地視察・ボランティア活動へ送り出そうというこの企画。若者に自ら考え行動に移すきっかけを与え、長期継続的に被災地への関心とかわりを深めてもらうことを目指しています。

文/富山閣子



最初の取り組みとして 『きっかけバス47』を支援

第一弾として、公益社団法人「助けあいジャパン」が主催し全国の大学生が中心となって活動している「きっかけバス47」を支援。きっかけバス47とは、47都道府県の学生たちが、それぞれバスに乗って実際に東北三県へ向かうというプロジェクト。すべての都道府県からバスを送り出すことで、日本中の若者が、東北との繋がりや復興へのかわりをもち、震災の教訓を地域の防災に活かす、きっかけをつくることを目指しています。

このプロジェクトの大きな特徴は、学生と社会人が補完し合う関係から成り立っている点。時間はないけれど経済的に余裕のある社会人が、寄付を通じて学生を支援する一方で、時間に余裕はあるけれど経済的に余裕がない学生は、ボランティアで復興にかかわる。まさにSKY BATONが目指すところそのものともいえる、学生と社会人による世代を超えた協力型プロジェクトなのです。

ある学生との出会いが、 今回の取り組みに繋がった

そもそもJALグループが、SKY BATONを立ち上げ、きっかけバス47を支援することとなるきっかけは、

「自分がお手伝いしたことになると思い、一生懸命頑張りました」(稲嶺萌子さん)

その後、宮城県気仙沼市へ移動し、仮設の商店街で復興を目指す地元の人たちと交流。「若い人にとんどん来てもらい、実際に見て感じたことを、それぞれの地域に帰ってから伝え続けてほしい」と商店街の人たちの学生への期待も高まります。

3日目は、南三陸町、名取市を訪れるとともに、地元の話の語り部ガイドの方々と震災当時の話を伺い、4日目には、福島県福島市にある『除染情報プラザ』で、除染や放射線の基礎知識を学ぶなど、現地で学生たちは多くのことを体験するとともに、見聞きしたことを心にとりかかりと刻みました。

「実は1年前にも来たのですが、そのときは沖繩に戻っても被災地での活動に賛同してくれる人はいなかったんです。でも今回はみんなで来ているので沖繩に戻っても若い力が集まって動ける姿勢が終始途切れないことに、



学生とともに、語り部ガイドさんの話に耳を傾ける関口さん(左から2人目)

ひとりの学生との出会いでした。「去年の夏、被災地で出会ったボランティアの学生は、自分で貯めた5万円を使って九州から来ていたのです。学生がひとりでもその金額を貯めるのは大変なこと。より多くの学生に東北にかかわってもらうために、こうしたハードルを下げることに協力できないかと思いました。感受性が強く、これからの日本の未来を担う学生たちに東北の今を見てもらう必要があると強く思ったのです」SKY BATON企画者/関口和生さん

サポートの仕組みは以下の通り。まずJALグループとして、沖繩や九州など、遠方からの学生の移動に往復の飛行機の座席を提供。さらにJALマイレージバンク会員の皆さまに、この取り組みに対するチャリティ・マイルへのご協力を呼び掛け(注1)、そのマイル相当額を助けあいジャパンに寄付して、きっかけバス47をサポートしていくのです。

「全国47都道府県から学生を東北に連れて行くプロジェクトとしては、距離の遠いエリアからの移動を支援してくれることは、本当にありがたいです」(きっかけバス47学生統括/弥富彬さん)

正直驚きました。とくに語り部ガイドさんが3年前に起こったことをその場で語る体験談や、今の東北に必要なことを訴える姿に、涙を堪えながら聞き入る様子を見て、東北の将来を継続的に考えていくきっかけをつくることのできたのではないかと感じました。『被災地を歩き、被災者の話を聴き、今の東北を改めて知ることができました。もっと多くの人にも肌で感じて関心をもっとほしい』といった意見を聞いたときには『この企画の意図が伝わってよかった』と心底思いました

沖繩県を含めて、すでに47都道府県から約1800名が東北地方を実際に訪れ、活動をしています。学生たちが見たこと、体験したこと、すべてがこれからの東北と日本の未来に繋がってほしい。SKY BATONはそんな思いから、これからも若者が東北にかかわるきっかけづくりを応援していきます。



今回ご紹介したSKY BATONに関しては、ウェブサイトもご参照ください。
www.jal.co.jp/tohokuproject/skybaton/index.html

注1:2014年3月16日までの3カ月弱の間に、3,666,000マイルものご厚意をお寄せいただきました。
私たちが取り組むCSR活動に関する詳細は、こちらでもご覧いただけます。 www.jal.com/ja/csr

